

アチック・ミュージアムの調査活動に関する基礎研究

——「隠岐」調査の検証・分析と民俗学的考察——

期間：2015年4月13日～2018年3月31日

〔代表者〕小林光一郎（日本常民文化研究所）

〔共同研究者〕榎村賢二（鳥取県立公文書館）

羽毛田智幸（横浜市歴史博物館）

木村裕樹（龍谷大学）

前田禎彦（日本常民文化研究所）

永井美穂（渋沢史料館）

共同研究における所感

研究代表者 小林 光一郎

「アチック・ミュージアムの調査活動に関する基礎研究—「隠岐」調査の検証・分析と民俗学的考察—」班は、2018年2月17日のフォーラム発表を最後に、3年間に亘る調査・研究活動を終えた。

その研究活動の具体的な成果は当研究班の調査報告書を参考にさせていただき、ここでは当該研究期間における研究活動の総括を記したい。

隠岐における実地調査をはじめ、各研究機関における資料調査といった、各班員が一堂に会する共同調査や研究会においては、班員の努力によりほぼ全員が参加し、それまでの知識に加え新たな情報を更新し更なる考察を深めたことが大きかったと考える。とかく「共同」を謳う割にその結果が個人研究の延長でしかない報告が多い昨今において、アチックの方法論に通ずる共同研究が現在においてもその成果につながることの一端を示すことができたのではなかろうかと自負する次第である。

また、アチックになぞらえるのであれば、考察編に加え、『アチック写真』vol.6補遺「隠岐調査編」、「宮本馨太郎「調査メモ」、



写真1 資料調査の様子（2015年5月24日／於渋沢史料館）

「隠岐関係動画詳細一覧」、「櫻田勝徳資料翻刻」といった、写真資料、民具資料、動画資料、調査ノート等の資料翻刻という資料編をまとめることができたことにより、アチックの検証における研究に一層の重層的な資料を提供できたことが有益であったと考えられる。これについては上記の共同研究に関連し、調査に伴って表出した各資料に対し、それらを報告書に掲載することを班員一致の意見において行えたこと、また、それら報告



写真2 隠岐郷土館における資料調査の様子（2015年9月2日／於隠岐郷土館）

編掲載における調査研究をそれぞれの各班員が担ったことが大きい。これは研究自体が更新され深化されていくという一過性に近い性格を持つものに対して、資料自体は固定的にその価値を一定に保ち続けるという性格を持ち、当研究における評価とは別の次元で記録としての資料が学界に提出されるという重要性を鑑みた結果であることは言うまでもない。

これら共同研究や資料提出という研究の方向性は、筆者小林が特にこだわったところであり、いずれもアチックを意識した態度である。その有効性の如何はともかく、いずれにせよ、小林が主導したある程度の研究の方向性に班員が一定の理解を示した上で研究を行えたことに対し、この場を借りて感謝したい。

フォーラムの報告においても既述したことであるが、研究の目的である「アチック・ミュージアム及びその主催者であった渋沢敬三の調査活動や、その調査に関連して得られた諸資料から、アチックやアチック同人に関する情報の蓄積とアチックの実態の追求を主眼とした基礎研究」を行うことについては、当報告書をもってある程度達成されたことになる。しかし、当成果は、飽くまで、更なる資料の追加や補填等によってその「質」を高めることができる「資料」を提出したにすぎず、アチック研究史の総合的な考察を行うためには、今後も「資料」を蓄積していく必要がある。筆者自身、もし次の共同調査・研究の機会があるならば、今回の実績や反省を活かしたさらなる考察や重層的に継続できる資料の提出を心がけ、アチックの総合的研究を行いたいと考える。

■活動データ

2017年度の活動

- 成果刊行物打合せ 2017年5月11日 国際常民文化研究機構 小林光一郎
- 成果刊行物打合せ 2017年6月17日 日本常民文化研究所 小林光一郎・羽毛田智幸・永井美穂
- 『アチック・ミュージアムの調査活動に関する基礎研究—「隠岐」調査の検証・分析と民俗学的考察—』
神奈川大学日本常民文化研究所調査報告 第26集（国際常民文化研究機構 共同研究〔奨励〕調査報告書）
2018年2月16日
- 第3回共同研究フォーラム「アチック・ミュージアムにおける隠岐調査の軌跡」2018年2月17日
小林光一郎・羽毛田智幸・永井美穂・木村裕樹・樫村賢二・前田禎彦、丸山泰明（天理大学）